

(1) アンケートの調査目的

①現状と課題及び方針策定の取組の周知

少子化に伴う児童生徒数の減少、教育環境の変化、施設の老朽化等による学校施設を取り巻く現状と課題への対応が必要であることについて意識の共有を図る。

また、本市の現状や抱えている課題及び学校適正配置等基本方針策定に関する取組について周知を図る。

さらに、新座市立学校の望ましい学校環境の整備に向けた取り組みに関して興味を持ってもらうことを目的とする。

②基本方針策定に関する議論を補強する基礎資料

アンケートの結果を新座市立学校の望ましい学習環境の整備に向けた適正配置等基本方針策定に関する議論を補強するための基礎資料とする。

また、潜在的なニーズや学校現場における意見を客観的なデータとして収集することで、本市の学校と教育が果たす役割、機能、環境等について、何が求められているのか等を把握する。

(2) 調査対象

- 保護者 : 市内小・中学校の児童生徒の保護者
- 教職員 : 市立小・中学校の教職員
- 学校運営協議会 : 市内小・中学校の学校運営協議会委員
- 児童 : 市立小学校に通う4年生から6年生の児童
- 生徒 : 市立中学校に通う全生徒
- 未就学児の保護者 : 市内幼稚園(私立11園)、保育園(公立6園)に通う未就学児の保護者
- 市民 : 上記以外で、令和8年4月1日時点で15歳以上の方

(3) 調査期間

令和8年8月～11月(予定) (案内～配布～回答期間～結果取りまとめ)

・7月30日の審議会で内容確認後8月から案内、9月から回答受付開始。

・児童生徒は2学期開始時に各学級で実施。市民対象は広報9月号と市ホームページに案内を掲載。

・**回答〆は9月15日(火)を想定**(回答状況を見ながら9月頭に再度案内を行うか検討する)。

(4) 調査方法等

	児童生徒 保護者	教職員	学校運営 協議会	児童生徒	未就学児の 保護者	市民
調査 対象数	約12,000人	約700人	約180人	約8,000人	約2,000人	—
予想 回収率	30%	80%	60%	90%	30%	—
実施 方法	QRコード入りチラシを配布、 Web上で回答※			児童生徒用 タブレット から回答	QRコード入 りチラシを配 布、Web上 で回答※	市HP、広報等 により周知し、 Web上で回 答※
設問数	17問	17問	14問	6問	16問	8問
想定回 答時間	10分程度以内					

※オンライン回答が難しい場合は、個別に紙調査票で対応

● 調査の概要

(5) 調査項目

設 問 項 目		児童生徒 保護者	教職員	学校運営 協議会	児童 生徒	未就学児 保護者	市民
基本情報	居住地、学校名	○	○	○	○	○	○
	年齢、学年、居住期間等、在籍学級数	○			○	○	○
	職種、勤務年数等		○				
	小規模校及び大規模校での勤務経験		○				
	通っている園（幼稚園・保育園）					○	
	現住所の指定校（住民登録地により、就学すべき学校）					○	
	兄弟、姉妹の状況（市立小中学校在学の有無）					○	
学級数等	子供の学年の学級数	○					
	現住所の指定校の学級数の数を知っているか					○	
	1 学年あたりの望ましい学級数と理由	○	○			○	
	1 学級あたりの望ましい人数と理由	○	○			○	
教育活動	小規模校のメリット・デメリット（児童生徒向け設問は別途）	○	○	○	○		
	小規模校の学校運営上の課題		○	○			
	大規模校のメリット・デメリット（児童生徒向け設問は別途）	○	○	○	○		
	大規模校の学校運営上の課題		○	○			
通学区域時間	現状の通学時間	○					
	望ましい通学時間	○	○	○		○	
	望ましい通学時間を超える場合の配慮について	○	○	○		○	
	学区設定上重視すること	○	○	○		○	
中学校進学での戸惑い					○		
これからの学校教育で重要だと思うもの（児童生徒向け設問は別途）		○	○	○	○		○
学校施設	これからの学校施設で重要だと思うもの	○	○	○		○	○
	老朽化によって発生する問題で重要だと考えるもの	○	○	○		○	○
	学校施設の複合化についての考え方	○	○	○		○	○
	学校の建て替えに関する考え方	○	○	○		○	○
学校が地域で担う役割として重要な（期待する）もの		○		○		○	○
設問数		17	17	14	6	16	8

● 調査の概要

(6) アンケート設問項目案

アンケート調査の主要な設問項目の詳細と選択肢について（案）

学 級 数 等

1 学年あたりの望ましい学級数と理由（35人学級を前提として）

小学校：「1学級」「2学級」「3学級」「4学級」「5学級以上」の中から選択

中学校：「1学級」「2学級」「3学級」「4学級」「5学級」「6学級」「7学級以上」の中から選択
〈理由〉

- ・一人ひとりの状況に応じた、きめ細かな指導が受けられるから
- ・クラスのメンバーが大きく変わらず、子どもたちの人間関係が深まりやすいから
- ・学年を超えた交流・行事ができるから
- ・クラス替えができるから
- ・多様な価値観や意見に触れることができるから
- ・クラブ活動などの選択の幅が広がるから
- ・その他(自由記述)

1 学級あたりの望ましい人数と理由

「15人以下」「16-20人」「21-25人」「26-30人」「31-35人」「36人以上」の中から選択

〈理由〉

- ・一人ひとりの状況に応じた、きめ細かな指導が受けられるから
- ・発表やグループ活動などで一人ひとりの活躍の機会が多くなるから
- ・子どもたちの人間関係が深まりやすいから
- ・少人数学習やグループ学習など多様な学習形態をとることができるから
- ・集団の中で切磋琢磨することができるから
- ・多様な価値観や意見に触れることができるから
- ・その他(自由記述)

● 調査の概要

教育活動

小規模な学校（12学級に満たない学校）の教育活動におけるメリット・デメリット【児童生徒以外向け】

〈メリット〉

- ・子どもたちの人間関係が深まりやすい
- ・学校行事やクラブ活動等で子どもたちに個別の活動機会を設けやすい
- ・異学年間の教育・交流活動を設けやすい
- ・教員の目が届きやすく、きめ細かな指導をしやすい
- ・ICT 機器などの授業で使用する教具を一人一人に行き渡らせやすい
- ・学校と保護者・地域社会が連携した教育活動を展開しやすい
- ・その他(自由記述)

〈デメリット〉

- ・子どもたちの人間関係や相互の評価などが固定化しやすい
- ・多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい
- ・集団活動や学校行事に制約が生じやすい
- ・習熟度別学習やグループ学習など多様な学習形態がとりにくい
- ・クラブ活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい
- ・PTA 活動等における保護者1人あたりの負担が大きくなりやすい
- ・その他(自由記述)

学校の児童の数やクラス（組）の数について 【児童向け】小学校4年生～6年生

学校の児童の数やクラス（組）の数は多いほうが良いと思いますか（はい・いいえ・どちらとも言えない）

〈はいと答えた理由〉

- ・多いほうがにぎやかで楽しくなるから
- ・友達ををたくさん作ることができるから
- ・色々な友達とたくさん話することができるから
- ・多いほうが運動会や音楽会が盛り上がり楽しくなるから
- ・その他(自由記述)

〈いいえと答えた理由〉

- ・少ないほうが落ち着いて勉強できるから
- ・周りにいる友達ともっと仲良くなれるから
- ・ほかの学年と交流できることが多くなるから
- ・少ないほうが運動会や音楽会で活やくしたり目立つことができるから
- ・その他(自由記述)

生徒数やクラス（組）数について 【生徒向け】全中学校生徒

学校の生徒数やクラス（組）の数は多いほうが良いと思いますか（はい・いいえ・どちらとも言えない）

〈はいと答えた理由〉

- ・友達をたくさん作り、幅広い人間関係を築きやすい
- ・色々な考え方をを持った人と触れ合うことができるため
- ・学校行事（体育祭や合唱祭）が盛り上がるから
- ・部活動にも活気が生まれるため
- ・その他(自由記述)

〈いいえと答えた理由〉

- ・友達との人間関係を深めにくくなると思うから
- ・人数が少ないほうが落ち着いた学校生活が送れると思うから
- ・学校行事（体育祭や合唱祭）で活躍できる場が広がる
- ・部活動で活躍できる場が広がる
- ・その他(自由記述)

● 調査の概要

小規模校の学校運営上の課題

- ・子どもたちの良さが複数の教員から多面的に評価されにくい
- ・教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達（人材育成）がなされにくい
（例：学年会や教科会等が成立しない）
- ・教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい
- ・その他(自由記述)

大規模な学校（１９学級以上の学校）の教育活動におけるメリット・デメリット【児童生徒以外向け】

〈メリット〉

- ・子どもたちが多様な意見に触れ、幅広い人間関係を築きやすい
- ・子どもたちの相互の評価が固定化しにくい
- ・ティームティーチング、グループ別指導、少人数指導等の多様な指導形態がとりやすい
- ・経験、年齢、性別等バランスの取れた職員配置ができる
- ・教員一人あたりの校務の負担が分散できる
- ・PTA 活動等における保護者一人あたりの負担が少ない
- ・その他(自由記述)

〈デメリット〉

- ・支援の必要な生徒が見つけにくくなる
- ・生徒による自主的な活動をする際、統制が取りにくい
- ・集団活動・行事が活性化するが、待ち時間が増える
- ・特別教室や体育館等施設の使用調整が必要になる
- ・体育館や校庭を２クラス以上で使用することが恒常的に生じ、用具の不足や安全管理に懸念が生じる
- ・行事や集会等の全校実施が難しくなる
- ・その他(自由記述)

大規模校の学校運営上の課題

- ・学年全体に教職員の目が行き届きにくい
- ・意思決定に時間がかかる
- ・教員相互の連絡調整が図りにくい
- ・その他(自由記述)

● 調査の概要

通 学 時 間 ・ 通 学 区 域

望ましい通学時間について

- ・ 15分未満
- ・ 15分～30分未満
- ・ 30分～45分未満
- ・ 45分～60分未満

望ましい通学時間を超える場合の配慮について

- ・ 公共交通機関（バス等）の利用を認める
- ・ 自転車での通学を認める
- ・ 居住地から近い場所にある学校への通学を認める
- ・ スクールバスを運行する
- ・ その他(自由記述)

学区の設定について重視すること

- ・ 安全・安心な通学路・通学手段で通学できるようにする
- ・ 児童に負担がかからない程度の距離・時間で通学できるようにする
- ・ 学校生活を送るうえで、国が示す基準(12-18学級)に準じた学級数や人数となるようにする
- ・ 1つの小学校からは1つの中学校に通えるようにする
- ・ 1つの地域（自治会）が複数の学区に分かれないようにする
- ・ その他(自由記述)

中学校になって、小学校との違いで戸惑ったこと（2つまで選択）【生徒向け】全中学校生徒

- | | |
|--------------|-----------------|
| ・ 学習、テスト | ・ 生徒数や学級数の違い |
| ・ 部活動 | ・ 科目ごとに先生が変わる授業 |
| ・ 友人関係 | ・ 制服、持ち物 |
| ・ 上級生との関わり合い | ・ 授業時間の長さ |
| ・ 先生との関わり合い | |
| ・ 特にない | |
| ・ その他(自由記述) | |

● 調査の概要

これからの学校教育で重要だと思うもの(3つまで選択可) 【児童生徒以外向け】

- ・ 基礎的・基本的な学習内容の習得とともに自ら考え課題解決する力の育成
- ・ 外国語・外国語活動を通じた国際性を育む教育
- ・ 一人ひとりの教育的ニーズに基づいた多様な他者との交流活動や共同学習の推進
- ・ 豊かな心を育む道徳・人権・福祉教育の推進
- ・ ICT環境や先端技術を活用した教育
- ・ 学校と地域が連携した体験学習やキャリア教育
- ・ 児童生徒の健康づくりを推進するため、体力向上と学校保健の充実
- ・ 義務教育9年間を見通した、切れ目のない教育(小・中連携の推進)
- ・ 児童生徒の心の問題に対応するための相談体制の拡充
- ・ その他(自由記述)

学校のじゅぎょうで楽しいことや好きなこと【児童向け】 小学校4年生～6年生

- ・ 教科書を読んだり覚えたりすること
- ・ 外国語・外国語活動のじゅぎょう
- ・ いろいろな人と話したり考えたりするじゅぎょう
- ・ タブレットを使ったじゅぎょう
- ・ 新しいことに挑戦できるじゅぎょう
- ・ 体を動かすじゅぎょう
- ・ 学校の外に出て勉強するじゅぎょう
- ・ その他(自由記述)

学校の授業で楽しいことや好きなこと【生徒向け】 全中学校生徒

- ・ 自分でじっくり考える時間がある授業
- ・ 友達と意見を出し合ったり、グループで話し合う授業
- ・ 外国語の授業
- ・ 別のクラスの生徒やいろいろな人と意見を出し合ったり、グループで話し合う授業
- ・ 道徳、人権に関する授業
- ・ タブレットやデジタル教材を使った授業
- ・ 地域や校外での体験学習
- ・ 新しいことにチャレンジできる授業
- ・ その他(自由記述)

● 調査の概要

学 校 施 設

これからの学校施設で重要だと思うもの（機能・役割等）

- ・防災・防犯機能の強化
- ・児童が快適に学習できる環境
- ・教職員が快適に働くことができる環境
- ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進（※用語解説入れる）
- ・周辺環境への配慮
- ・地域の方が使うことができるスペースの充実
- ・図書室の充実
- ・避難所機能の強化
- ・子育て支援機能との複合化
- ・その他(自由記述)

学校施設の老朽化によって発生する問題で心配と思うもの

- ・災害発生時の生徒の安全確保が心配である
- ・昔の設計の校舎のため、現在の教育環境に合わなくなる
- ・雨漏りや設備故障が発生し、学校生活に支障をきたす
- ・災害時、安全面等から避難所として使用しづらい
- ・校舎が古いことにより生徒の登校意欲が湧かなくなる可能性がある
- ・その他(自由記述)

学校施設の複合化についての考え方（効果的と思われるもの）

- ・放課後児童保育室や保育所などの子育て支援施設
- ・老人福祉センターなどの高齢者福祉施設
- ・公民館や集会所、図書館などの地域住民の利用施設
- ・災害時に利用できる施設
- ・学校施設の複合化は行うべきではない
（セキュリティ確保の観点等）
- ・その他(自由記述)

学校の建て替えに関する考え方について

- ・現在の学校数を維持するため、経費は増えても、全ての学校を建て替える
- ・将来の児童・生徒数を見据え、経費も考慮し、地域ごとに建て替える学校を決めて、建て替える
- ・経費を増やさないことを重視し、一部建替えなど、最小限度の範囲で建て替える
- ・その他(自由記述)

● 調査の概要

学校が地域の中で担う役割として重要と考えるもの(3つまで選択可)

- ・ 児童・生徒の放課後の居場所・活動場所
- ・ 地域防災の場
- ・ 地域のコミュニティ活動・交流の場
- ・ スポーツ活動の場
- ・ 文化活動の場
- ・ 生涯学習の場
- ・ 子育て支援の場
- ・ 高齢者福祉の場
- ・ 障がい者福祉の場
- ・ 行政窓口サービスの等の場
- ・ 選挙の投票所
- ・ 特になし(児童・生徒の学びの場以外の役割は不要)
- ・ その他(自由記述)